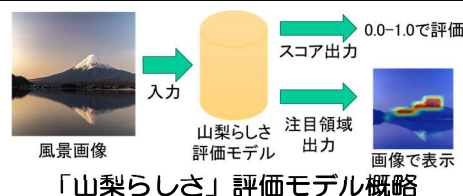


「山梨らしさ」を評価する感性評価モデル構築に適した学習画像に関する研究

中村卓・木島一広・浅川拓也・串田賢一（産業技術センター）
郷健太郎（山梨大学）・木下雄一朗（芝浦工業大学）

「山梨らしさ」評価モデル*

- 県内外900名を対象としたウェブ調査結果を基に作成
 - 風景画像の「山梨らしさ」を0-1のスコアとして評価
- 評価時の評価モデルの注目領域を可視化



課題

- 「評価モデルの注目領域」と「人の注目領域」に齟齬
 - 共感が得られないため、説明性に乏しい
- 学習に適した画像の検証が必要
 - 使用する画像によっては、人による評価との乖離が発生するおそれ

研究の目的

「山梨らしさ」評価モデルを「より人間の判断に近づける」ために必要な、学習画像的的確化手法を確立

- 評価モデルの説明性向上
 - 学習に用いる画像の検証
- を実施

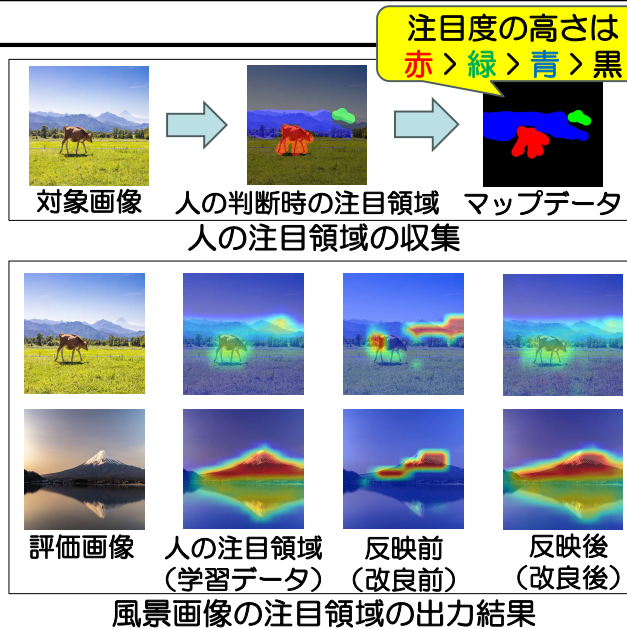
評価モデルの説明性向上

人の注目領域を反映させた「山梨らしさ」評価モデルを構築

- 人の注目領域の収集、学習データ作成
 - 当所職員（県内在住者）の「山梨らしさ」判断時の注目領域を収集し、マップデータを作成
 - 収集したマップデータを学習データに加工
- 教師データに1.のデータを追加して学習を行い、モデルを構築

人の注目領域に近くなり、評価モデルの説明性が向上

- （次年度）
- 評価モデルの評価
 - 県外在住者の注目領域の収集・学習
 - 学習の大規模化



学習に用いる画像の検証

- YOLOで風景画像の構成要素と範囲を解析
 - 山、木、花、建物、富士山 など
- 画像加工で構成要素を変更した際のスコアや注目領域の変化を調査

同じ花や山でも、違う物体になるとスコアや注目度合が変化

- （次年度）
- 変化が大きい要素の検証
 - 検証を基に適切な学習画像を選定

